

## ドクターインタビュー

近畿大学医学部附属病院 病院長 東田 有智 先生

近畿大学医学部附属病院は、大阪府アレルギー疾患医療拠点病院に認定されており、豊富な知識と経験をもったアレルギー専門医が診療を行っています。同大学で病院長を務められる東田有智先生は、呼吸器・アレルギー内科でも日々、患者さんの診療に邁進されています。また、一般社団法人日本アレルギー学会の理事長として、学会の活動を通して、アレルギーの正しい治療の普及にも勤しんでおられます。平成27年に施行された「アレルギー疾患対策基本法」に伴う学会の取り組み、アレルギー疾患の治療について伺いました。

—— アレルギー疾患対策基本法が施行された社会的背景について教えてください。

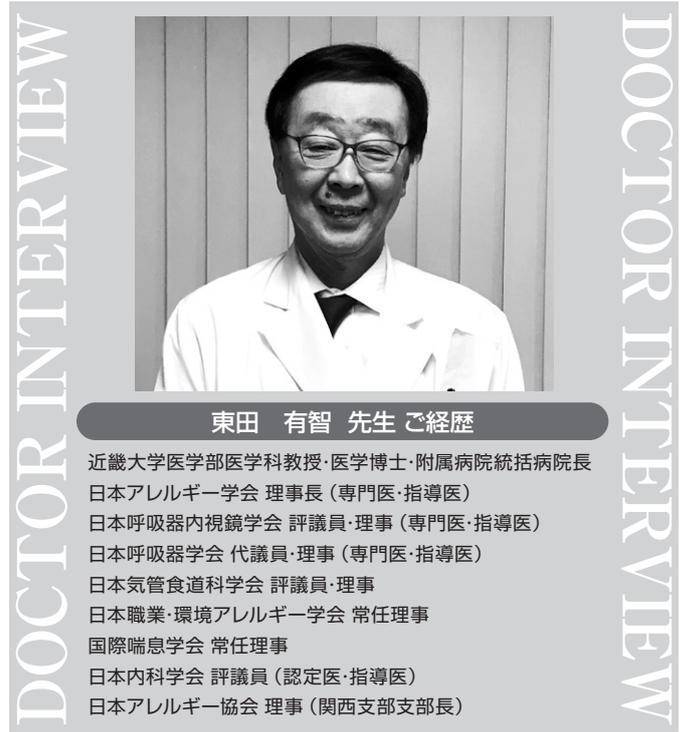
まず、アレルギー疾患患者人口の増加です。気管支ぜん息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、食物アレルギーなどのアレルギー疾患を持つ方は、治療を受けていない方も含めると、国民の2人に1人、約6,000万人と考えられています。さらに、アレルギー疾患は症状の悪化により生活の質が著しく損なわれるため、重症化の予防、症状の軽減を行い、生活の改善を図る必要があります。

アレルギー疾患は治療法が進化していて、治療をすればかなり病状が改善し普通の生活が可能です。しかし、患者さんの数に対して専門医が圧倒的に少なく、うまく治療ができていない場合も多いのが現状です。ちゃんとした治療法が行き渡っていないんですね。東京や大阪など都会はドクターの数も多いので専門医も多いのですが、地方にいけば専門医が少なく専門施設もない。都会と地方に治療の格差ができてしまっていて、正しい情報も入りにくくなっています。いつでもどこでも、同じ治療を受けられないと国民にとってこんな損失はないですよ。とにかく、アレルギーはこれから育つ小さい子にも多い疾患なので、全国どこでも専門医療が受けられる治療の均てん化が急務です。そういった背景から、国が治療の均てん化、アレルギーの病態解明の研究などの重要性を踏まえ、アレルギー疾患対策を総合的に推進することを目的として平成27年に「アレルギー疾患対策基本法」を施行しました。

—— アレルギー疾患対策基本法に関する日本アレルギー学会の取り組みについてお聞かせください。

まず、治療の均てん化を図ることが目標です。そのためには、専門医を増やさなくては行けない。また、専門医だけでは十分なケアができないので、看護師、薬剤師、栄養士などアレルギーの治療に関わる人たちに向けて、アレルギーインストラクター制度を作り治療に対する正しい知識の普及を目指します。これからは看護師も医師と一緒に、ある程度内科の基盤があってそれができて次の専門に進むという、専門看護師が必要だと思います。インストラクター制度や専門施設ができると、その専門ドクターと看護師が必要になってきます。そういった医療機関にかかれば、間違った治療にはならないと思います。皆さん質の高い治療を受けたいはず。質が高くても低くても、治療費は同じですね。私のところにも、治療がうまくいかず紹介状なしで診察に訪れる患者さんがいます。今までの治療や処方されている薬を見ると、ひどいなと思うこともありますよ。このようなことが無くなるよう、均てん化は大事だと考えています。

患者さんに対しては、市民公開講座を開催し正しい治療法の認知度を高めます。また、「アレルギー疾患対策基本法」の趣旨に則り、スマートフォンにも対応したポータルサイト「アレルギーポータル」を立ち



東田 有智 先生 経歴

近畿大学医学部医学科教授・医学博士・附属病院統括病院長  
日本アレルギー学会 理事長（専門医・指導医）  
日本呼吸器内視鏡学会 評議員・理事（専門医・指導医）  
日本呼吸器学会 代議員・理事（専門医・指導医）  
日本気管食道科学会 評議員・理事  
日本職業・環境アレルギー学会 常任理事  
国際喘息学会 常任理事  
日本内科学会 評議員（認定医・指導医）  
日本アレルギー協会 理事（関西支部支部長）

上げました。アレルギーについてわかりやすくまとめた内容で、アレルギー疾患医療に関する正しい知識の普及に努めています。本来はアレルギー対策の正しい情報をもっとマスコミが取り上げないといけないと思います。市民講座に参加される方は、もともとよく勉強されている方です。テレビや新聞などに取り上げられて、広く多くの方に知ってもらうことが必要だと思います。

—— アレルギー疾患の治療について教えてください。

正しい治療を受けることが大切です。現在は、アトピー性皮膚炎であっても、気管支ぜん息であっても、薬が良くなっているのが9割ぐらいの確率で病状は改善されます。なので、なかなか良くならず治療に納得できなければ、違う医療機関にかかってみていいと思います。また、正しい治療をしても改善が見られない一部の難治性の患者さんに対しては、もっとカバーしていかないといけないところだと思います。

アレルギーは免疫の過剰反応なので、その反応を抑えないといけない。アレルギーの主薬はステロイドで、ステロイドと聞くとほとんどの人が怖いイメージを持っています。副作用の問題もあり不安に思う患者さんが多いのですが、ステロイドもいろんな種類があり、症状により必要な分だけ使用します。薬をうまく使って、きっちり治療すれば今より過ごしやすき生活ができることは間違いないんです。それをもっと知っていただきたいですね。

—— 患者さんへメッセージをお願いします。

アレルギーは慢性疾患ですから簡単に治癒するものではありません。しかし、ちゃんと治療すればよくなります。何か月もそのまま改善しない方がおかしい。アレルギーをコントロールできるようになれば、充実した生活が可能です。症状がなかなか改善しない人は、とにかく専門医のいる医療機関へ行ってみてください。きっちり治療して、まず普通に生活できるようにしましょう。それから次のステップを考えていけばいいと思います。

—— 本日は貴重なお話、ありがとうございました。